



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第32号 (2010年2月28日)

第一回「チェロの日」開催



2010年1月23日、「アマチュアもプロもチェロを愛する人は楽器を持ってサントリーホールに集まろう!」という主旨のもと、日本チェロ協会主催第1回「チェロの日」を開催いたしました。この企画は、会員有志の方から「チェリストのチェリストによるチェリストのためのイベントを」という希望から生まれたイベントです。チェロを愛好するみなさまが集まって、チェロを弾いて、聴いて、チェロを満喫する一日を送っていただきたい、という強い思いで企画を実現することとなりました。

第1回「チェロの日」として「アンサンブルを楽しむ」ことをテーマにプログラムを構成いたしました。

1. ビギナーズ・アンサンブルによる演奏
2. アンサンブル・チームによる演奏
3. 参加者全員のアンサンブル

という3本立てです。

今回は、チェロ演奏のビギナーの方、アンサンブルを組んだことのないアンサンブルのビギナーの方を対象に2チームに分かれての演奏となりました。開会は13時ですが、ビギナーの方々には、講師の先生をお招きして、午前中からワークショップという形で演奏のリハーサルをしていただきました。

まず、チェロ演奏のビギナーの方々(ビギナーズ1)は、フランク作曲「組曲」を演奏していただくことになり、ワークショップでは、若手チェリストの幸田有哉さんに講師をお願いしました。もう一組のビギナーの方々(ビギナーズ2)には、フィッツェンハーゲン作曲「アヴェ・マリ

ア」を演奏、講師には東京藝術大学修士2年生の長谷川彰子さんをお願いしました。朝早い集合時間にもかかわらず、皆様大変熱心に練習されていたのが印象的でした。そのワークショップでの成果は、午後からの本番で発揮されます。

<13:00~ 開会>

いよいよ、「チェロの日」のスタートです。トップを飾っていただくのは、ワークショップで講師を務めていただいた幸田有哉さんの演奏です。曲は、カサドの無伴奏組曲の「プレリュード」です。オープニングにふさわしい素晴らしい演奏で、一気に本番のほどよい緊張感と一体感が生まれました。





ビギナーズ・アンサンブル1 (上) & 2 (下)



＜ビギナーズ・アンサンブルの演奏＞

幸田さんの演奏に引き続き、ビギナーズ・アンサンブルの方の発表です。ビギナーズ1 (15名) の演奏は、急遽幸田さんが指揮をふるることとなり、アンサンブル披露となりました。チェロの演奏自体はじめて間もない方が多い中、皆様の一生懸命に演奏されていました。次に、ビギナーズ2 (14名) のアヴェ・マリアですが、チェロ演奏はご経験のあるかたが多いためか、美しいハーモニーを作られていて、長谷川さんも本番が一番良かったとおっしゃる、素晴らしい演奏となりました。

＜アンサンブル・チームの演奏＞

続いてのプログラムは、アンサンブル・チームによる演奏の発表です。今回は6組のグループの方々が参加されました。みなさまそれぞれ工夫を凝らした選曲で、2人のチームから18人のチームと、チェロの様々な組み合わせをお楽しみいただけたのではないのでしょうか。

そのアンサンブル演奏の途中、チェロ協会のご紹介のあと、サプライズとして遠藤真理さんが登場。黛敏郎作曲「文楽」を演奏して下さいました。遠藤さんはチェロ



先生によるアンサンブル

協会の会員でもあり、12月11日に斎藤秀雄メモリアル基金記念賞を受賞されましたが、急遽ご参加をお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。

アンサンブル・チームの演奏のとりを、7組目としてご登場頂いた、チェロ協会の会長・堤剛先生、副会長の堀了介先生、評議委員の倉田澄子先生、山崎伸子先生によるカルテットでの、サプライズ演奏となりました。「チェロの日」でしか見られない、聴くことの出来ない、まさにスーパーアンサンブルの演奏に鳴り止まない拍手と、会場全体が感動に包まれました。

＜全体アンサンブル＞

休憩を挟んで、最後のプログラムの、カザルス作曲「サルダナ」の全体アンサンブルです。今回の演奏での参加総数は69名となり、8パートあるこの曲は、まず、パートごとに席を決めて、席に着くだけでも時間がかかってしまうほどでした。ご指導と指揮を引き受けてくださったのは堀了介先生です。演奏を開始すると、曲の難しさからか、なかなか先に進めず、度々先生のご指導が入る箇所が見受けられましたが、先生のポイントをおさえた見事なご指導のもと、徐々に演奏がまとまってくるのが、手に取るようにわかっていきました。難曲ですが、ご参加の皆様の素晴らしい集中力で演奏がどんどんとよくなっていきます。

小休憩をはさみ、最後に「本番」として聴講のみなさまに曲の披露です。堀先生指揮のもと、ご参加の皆様が一生懸命真剣に、そして時には笑顔が見られる素晴らしい演奏をしていただきました。演奏が終わった後は、演奏されたみなさまの達成感を感じられるような素敵な瞬間でした。

＜懇親会＞

全体アンサンブルをもって「チェロの日」のプログラ



アンサンブルチームの演奏



ムは終了となりましたが、その後は同じくサントリーホール・ブルーローズでの懇親会です。懇親会の中では、チェリスト同士、垣根なく楽しくお話されていました。会員の石島さんがご用意くださった楽譜で即席アンサンブルを作って演奏を楽しまれる方もいらっしゃり、それには倉田澄子先生もご参加下さいました。今回特別にYAMAHAさんがチェロを3台展示してくださり、みなさんと楽器を試演するなど、あちらこちらで話の輪ができて懇親会も非常に盛り上がり充実した一日を締めくくる会になりました。

「チェロの日」は第1回ということで手探りのことも多かったのですが、多くの皆様のご協力を得て、大成功のうちに終わることが出来ました。この「チェロの日」では、企画段階から会員の石島さん、渡辺さん、箕口さんにご尽力いただきました。当日にはさらに、ボランティアスタッフの澤田さん、サントリーホールの溝口さん、河井さんにもご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。そして、ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。また、来年お会いしましょう。



懇親会

会員の声

ビギナーズアンサンブル:アヴェ・マリア参加 「実は初めてのチェロアンサンブルへの挑戦でした」

小倉千秋 R-166

「チェロの日」当日は、新橋からバスでアークヒルズ、サントリーホール練習室へ向かいました。すでに皆さん集合されていて、先生が到着するまで参加者で指ならしの練習を開始。ビギナーズと言っても、皆さんとても上手でした。練習している間に、長谷川彰子先生が到着。全員が自己紹介をしてワークショップの開始となりました。さらにブラッシュアップしてアンサンブルを楽しみました。チェロ歴は長いのですが、実はチェロアンサンブルに参加したのは初めて。フィッツェンハーゲンの「アヴェ・マリア」は心を洗われるような曲で、最後のフラジオレットは天国の光のように感じました。時間を忘れて演奏を続け、いつの間にか移動の時間になっていました。移動の際、堤先生の部屋の前で先生にお会いし、ご挨拶できて大感激でした。

本番と同じ、ブルーローズでステージリハーサルをしましたが、最高の出来でした。リハーサル終了後、カラヤン広場で参加者の方々と楽しくランチ、ロールケーキの美味しかったことも忘れられません。

本番は、客席で堤先生、倉田先生、堀先生、山崎先生、長谷川先生の前で緊張が最高となりました。演奏している間に、前回のチェロ協会のマスタークラスで、ウイスペルウエイ先生がG線を弾きながら仰った「皆さんはこの音が好きで始めたんでしょ」という言葉や、ハーゲン先生の時、サントリービールを無料で飲んだこと。トッパンホールにシュタルケル先生が同時多発テロの直後にも関わらず、来日されたこと、そして、カザルスホールでの設立総会など、その他たくさんの事を一瞬で思い出

しました。途中でどこを演奏しているのか、一瞬分からなくなりましたが、なんとか合流できて、最後は決まりました。山崎先生のご講評の「良かった」の一言で、今後更に練習しようとチェロへの思いはつるばかりでした。次回は緊張感を持って臨みます。みなさん楽しい一日有難うございました。

「サルダナ」(全体合奏)の選曲について

石島栄一 R-016

今回、スタッフの一人としてこの曲を選んだ犯人は私です。「難しすぎる」「こんな曲知らない」「CDも売っていない」とずいぶん怒られました。晴れの第一回「チェロの日」に相応しい曲を、ということで、あまり多くないチェロ合奏の曲の中からクレンゲルの讃歌などメジャーな(?)曲も当然検討したのですが、チェロアンサンブルという概念がほとんどなかった時代にカザルスによって「チェロオーケストラのために」書かれたこの曲に惹かれました。でも(初心者に近い参加者も多いのに)この曲は技術的には簡単だとはとても言えないし、8パートもあるし、果たして最後まで通るだろうか、などと心配事は尽きませんでした。

ところが、当日は堀先生のご指導の下、1時間弱の練習で(奇跡的に?)曲になったのです。「弾けないところは弾けないまま」の部分がかかなりあったようですが、それはさておき。今回はスコアとパート譜を新たに作成して、オリジナルでの細かいミスを修正したり、譜めくりをしやすいよう工夫したのですが、反省点としては、パート譜にもっとキューを散りばめておけばよかった、とか、音源を準備して希望者に配ればよかった(作成した楽譜から全体や各パートの音を作れるのです)、などと終わってから気付く始末でした。

後日スタッフの反省会で「今後チェロの日では毎回この曲を練習して、日本人チェリストはサルダナが得意、というところまで何年も掛けて持って行きたい」と私が青年の主張をした(実際は青年ではありません)のですが、もちろん賛否両論でした。次回の選曲はどうなることでしょうか。「次は是非この曲を！」という方がいらっしやれば事務局にいつでもご一報下さい。



■「チェロの日」写真撮影：堀了介先生、東(事務局)

プログラム

■ビギナーズ・アンサンブル 演奏

1. フUNK:「組曲」より アダージョ、クーラント、ジーク
1st:長谷川亜希/日向朋子/別所和子
2nd:阿部真寿美/ジェームス千花/名原智佐子
/吉本由香里
3rd:稲田めぐみ/荻原佐和子/小泉喜正/入野朱美
4th:菅原依子/鈴木真理子/多田佳江/村田洋一郎
2. フィツツェンハーゲン:アヴェ・マリア
1st:池田順子/内木雅丈/小倉千秋/田中みゆき
2nd:窪田淳子/芳山朋史/中西圭祐
3rd:仙石裕子/田口薫子/平野千世/古澤延子
4th:小山英己子/櫻井京子/高田有子

■アンサンブル・チーム 演奏

《The 透凜音(トリオ)》

藤井直/堀内大示/石島栄一
ハイドン:ディベルティメント ニ長調から
アイルランド民謡:ロンドンデリーの歌
作曲者不詳:「風の名前を教えて」

《アン アミーゴ クラレット》

住野泰士/竹花加奈子
ブレヴァル:チェロ・ソナタ長調

《アンサンブルSKY》

木田好英/小高久美子/清水美保子/山内敏子
ヴィヴァルディ:ラフォリア
シューマン:トロイメライ
カッチーニ:アヴェ・マリア

《SOTT VOCE》

大中節子/酒井豊/高浜信子/谷口勲
ゴルターマン:「モルソード・サロン」より レジオーソ
フUNK:「組曲」 ニ長調より

《かまちえろ》

堀口省平/石島栄一/吉田菊乃
山田光義/宮地由美/浅倉直子
滝廉太郎:荒城の月
P.マッカートニー:All My Loving
(チェロ合奏 編曲/石島栄一)

《茅ヶ崎チェロ教室》

- 1st:長倉雅美/村岡正巳/福田坦子/尾崎礼子
飯岡まゆみ
- 2nd:赤沼重威/石田さより/上原睦美/小塚晴美
- 3rd:大川美雪/小西康雄/高橋俊雄/山延敬子
濱田洋子
- 4th:内藤徳子/稲垣宏/川村卓/濱田和博
ゴルターマン:「モルソード・サロン」より レジオーソ
伝承曲:「ドライデル」

■全体アンサンブル

カザルス:サルダナ

ピーター・ウィスベルウェイ先生による マスタークラス開催

～サントリーホール・ブルーローズにて～



ピーター・ウィスベルウェイ先生
チェロ公開マスタークラス
2009/10/18(日) 19:00~21:00
於サントリーホール ブルーローズ
＜聴講のお客様＞
会員 20名 一般 55名 当日 17名
合計 92名

2009年10月18日、オランダ出身のピーター・ウィスベルウェイ先生をお招きして、日本チェロ協会主催公開マスタークラスを開催いたしました。

今年は受講希望者が例年より多く、審査を通った、鈴木皓矢さん、持田遥さん、島根朋史さんの3名に受講生としてご出演いただきました。また、聴講のお客様も昨年以上においでいただき、熱気あふれる一日となりました。

ウィスベルウェイ先生はとてもチャーミングな方で、独特なダイナミックなお話のされ方・レッスンの方法に、またお話の楽しさに、受講生の方だけでなく聴講のお客様にも笑い声の多いマスタークラスとなりました。お一人お一人時間をかけて、時には伴奏の方にも丁寧にご指導くださいました。

最後に先生からのメッセージをお願いしたところ、聴講のお客さまからの質問を受け付ける時間となりました。その中で、先生が長い時間お手本として演奏して下さるなど、先生の演奏も併せてお楽しみいただけたとても貴重な充実した時間となり、ご来場いただいた皆様には大変お楽しみいただけたのではないのでしょうか。

ウィスベルウェイ先生をはじめ、ご参加下さった受講者の皆様、聴講の皆様にご心より御礼申し上げます。今年も当日のボランティアスタッフとして会員の渡辺さんがステージマネージャーとしてリハーサルからお手伝いいただき、また、評議委員になられた会員の石島さんにもタイムキーパーとしてお手伝いいただきました。さらに、

サントリーホール箕口さんにも当日に受付としてお手伝いいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

以下、受講者のレポート、及び当日のスケジュールをご紹介します。

受講レポート

鈴木 皓矢さん

(桐朋学園大学音楽学部 在学)

ウィスベルウェイ先生のレッスンはとても刺激的でした。今回僕が受講させて頂いた曲は、ベートーヴェンのソナタ第3番の第一楽章でした。この曲はベートーヴェンの数ある作品の中でも「運命」やピアノコンチェルト第4番などの、いわゆる傑作の森と言われた時期に書かれた名曲です。僕はこのロマン派への過渡期にあった曲をどういうスタイルで弾くかということに悩んでいました。古典的なボーイングやあまりヴィブラートをかけない奏法で弾くのか、ロマン派的に歌い上げるのか…

ウィスベルウェイ先生のレッスンを受けて、それらの悩みは吹き飛びました。まず先生がおっしゃっていたのは、「チェロ」ばかりを弾くなということ。チェロを構えて、息を調べて、指を指板に置いて、さあ弾くぞ！ではなくて、静かな自然界に溶け込むようなイメージで弾き始めるといい、とおっしゃっていました。音そのものをとても大切に、自分のイメージする音に限りなく近づけていくことを繰り返し指導して頂きました。つまり、古典的だとかロマン派的だとか、そういった明確な答えというものは無いと思いました。その時代背景を知った上で、どこまでも自分の音を探求しイマジネーションを膨らませながらあるべき姿を常に探し続けることが心に届く音楽に繋がると感じました。

ウィスベルウェイ先生の音楽は楽器そのものの音をと



ピーター・ウィスベルウェイ チェロ公開マスタークラス

2009年10月18(日) 19:00
サントリーホール プルーローズ

講師：ピーター・ウィスベルウェイ
Pieter Wispelwey

通訳：久野 理恵子
Rieko Kuno, interpreter

- ①) 19:05～ **鈴木 皓矢** (桐朋学園大学音楽学部 在学)
Koya Suzuki
ベートーヴェン：チェロソナタ 第3番 イ長調 作品69 第1楽章
Lud
ピアノ伴奏：三原 未紗子
- ②) 19:40～ **持田 遥** (桐朋学園大学音楽学部 在学)
Haruka Mochida
ブラームス：ピアノとチェロのためのソナタ 小短調 作品38 第1楽章
Johannes Brahms: Sonata for Piano and Violoncello in e minor op.38 1st movement
ピアノ伴奏：根本 英亮
- ③) 20:15～ **島根 朋史** (東京藝術大学音楽学部 在学)
Tomofumi Shimane
エルガー：チェロ協奏曲 小短調 作品85 第3、4楽章
Edward William Elgar: Violoncello Concerto e-minor Op.85 3rd&4th movement
ピアノ伴奏：井後 優弥

◆ピーター・ウィスベルウェイ氏 プロフィール◆

作品の様式と音楽に対する独創的で深い洞察力、それに超絶的なテクニックが伴い、古楽器と現代楽器の双方を最高の演奏水準で弾き分けるという前人未達の境地に達したチェリスト、ウィスベルウェイは、今や世界最高のチェリストの一人として注目されている。
オランダ出身。アンナー・ビルスマに師事した後、ポール・カッツ、ウイリアム・ブリスに学ぶ。1985年、オランダで最も将来性のある演奏家に2年に一度与えられるエリザベス・エヴァーツ賞を、92年にはオランダ最高のオランダ音楽賞を受賞。
ヨーロッパで、アメリカで、その演奏は聴衆と批評家の双方から最高の評価を得ており、勿論日本でも例外でなく、前回2005年の来日では各新聞・雑誌から絶賛された。優れたレーベル、チャンネル・クラシックスからリリースされている多数のCDは、世界中の批評家から賞賛され、多くの賞を受賞している。



主催：日本チェロ協会 / 協力：サントリーホール



でした。チェロという楽器を通じて、音楽の持つ表現力や説得力、そして色彩感豊かな音楽世界を追求すべく、努力していきたいと思いました。

ウィスベルウェイ先生、チェロ協会の皆様、そして聴講されていた方々に、厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

島根 朋史さん

(東京藝術大学音楽学部 在学)

僕はウィスベルウェイ氏の大ファンで、日頃からチェロのCDといえば彼のCDを聴き、彼が来日するとなればほとんどのコンサートに赴いている者です。

公開レッスンの存在に気づいたのはテープ送付締切の前々日。世界1尊敬する彼にレッスンして頂くというのは、またとないチャンスで、以前からの夢でした。

しかし、1日や2日の練習でテープ審査が通るのかという不安と、チェロ協会の存在すら知らず、こんなタイミングで入会してテープを受け取ってこないかもしれないという恐れがあり、すべてにおいてダメ元の出発でした。

昨年夏にやったバッハの5番プレリュードの楽譜を引っ張り出し、土壇場の録音。家族のサポートには本当に感謝しています。

それから半月。何のおとさたもなく、レッスンを受けるなどというのはあり得ないな…と、諦めて次の試験曲を練習しているところに、協会からの手紙が来ました。予想外の合格に、家族は祝福してくれましたが、きっと1番嬉しかったのは僕です。試験曲を片隅に追いやり(苦笑)、今年の春から夏にかけて練習し、もう当分弾かないと思っていたエルガーを予想外の再起用。室内楽やオ



でも純粋に美しく聴かせ、その中に豊富なイマジネーションととてもつもなく熱いパッションがあり、僕はそのスタイルにとっても良い影響を受けることが出来たと思います。これからも音で人を感動させられるチェリストを目指し、探求し続けていこうと思います。

持田 遥さん

(桐朋学園大学音楽学部 在学)

この度は、ピーター・ウィスベルウェイ先生のマスタークラスを受講させて頂く事が出来、心より感謝致しております。

ウィスベルウェイ先生の演奏をコンサートなどで聴く時はいつも、どこか違う世界に足を踏み入れたかのような神秘的な何かと、そして、内面から溢れ出て無限に広がっていく情熱や喜びを感じます。今回のレッスンでは、力強さやパッションはそのままに、きらきらと輝くような笑顔で私達に教えて下さった事が印象的でした。

マスタークラスの中では、音楽の本質的な事を表現するために、その過程において大切な手段を中心に多角的に教えて頂く事が出来ました。具体的には、「自分にしかない音楽」を追求する為の音づくりに関わるヴィブラートのかけ方であったり、弓の使い方であったり、また、目の前の楽譜を「チェロの曲」として見るのではなく、音楽が訴えかけてくるものからインスピレーションを得て、自分でオーケストレーションしてみる、といった事

ケの本番を数個挟みながらも、目標のその日まで、ウィスperlウェイ氏のあの綺麗な音色と歌いまわしを目指し、必死に練習しました。

当日、初めてブルーローズの舞台を踏み、緊張したりハを迎えました。しかし、サイン会で見てきた彼の陽気で気さくな（でも気品ある）性格と、今まで貫いてきた自分のウィスperlウェイ・オタク的なチェロ生活を信じ、且つ協力してくれた方への感謝を忘れず臨む決意をしました。

他の2名の方のレッスン時は、やはり陽気で気さくであることは間違いないと思いながら、興味深いボーイングの話や、歌いまわしを勉強しました。

そして自分の番。調弦を手伝って貰うという謎の優しさにどぎまぎしましたが、練習してきたものを必死に打ち出しました。4楽章で悪い癖が出て失敗し、悔しい面も多々ありましたが、表情付けの足りない所や余分なビブラート、他諸々貴重な（僕にとっては神の声のような）ご指導頂き、幼き頃からウィスperlウェイ先生を尊敬してやってきた気持ちは、なんとか伝えられたように思います。

協力してくれた方、聴いてくださったチェロ協会会員の皆様、東様、ありがとうございます。

大先生のご指導を胸に、さらなる努力を重ねていこうと思います。

チェロサロン 開催

2009年9月26日（土）
レオニード・グルチン 先生

2009年9月26日（土）に、群馬交響楽団の首席奏者、レオニード・グルチン先生主宰によりサントリーホール・リハーサル室にてチェロサロンを開催いたしました。

今回のクリニックは事情により急遽受講生の方が2名と、通常の3～4名よりは少なかったため、一人の時間がゆったりとれたため、お一人お一人に対してきめ細かいレッスンをさせていただきました。先生が受講生の方の演奏を聞かれる際、身体を使って、まるで指揮をされているかのように熱心にお聞きになり、それぞれの方に細かい技術的なことや、曲やフレーズの解釈まで色々と目を配ってくださっていました。

クリニック2名終了後は、休憩を挟んでアンサンブルの時間です。

あらかじめ皆様にお配りしていたフィツェンハーゲンの「アヴェ・マリア」と、当日にアルビノーニの「アダージョ」をみなさまにお配りして、そちらは初見での演奏となりました。先生の情熱的な指導のもと、みなさまの演奏が変わっていく様が素晴らしかったです。今回もチェロサロン終了後、楽器をお持ちのまま、質疑応答の時間になりました。先生が最後に参加者みなさまに、音楽をする時（音楽を演奏するとき）はプロでもアマチュアでも、その音楽のためにサービス（奉仕）したいから、作曲家が伝えたいことを観客に伝えているのだと仰っていました。（技術がないためにフレーズを壊したり、いけない音が聞こえてしまうような演奏はあまりよ



くない、とも仰っていました。）

ひとまず終了・解散となったあとも、個人的に先生にご質問されている方もいらっしゃり、皆様チェロを非常に熱心に取り組んでらっしゃる姿が印象的でした。チェロサロン全体を通して、ご指導くださった先生の熱い音楽に対する思いが伝わってくる一日でした。

今回は、前回見学に来てくださった、雑誌「サラサーテ」にチェロサロンの情報を掲載していただいた関係で、雑誌をご覧になってチェロサロンを知って、名古屋や山梨といった遠方からご参加くださった方もいらっしゃいました。

ご参加のみなさまには、お楽しみ頂けるだけでなく、音楽に対する純粋な気持ちが感じられる大変充実したチェロサロンになったのではないのでしょうか。

ご参加くださった皆様、ご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。



- ◇日 時 9月27日(土) 14:00~16:00
(16:30まで延長)
- ◇会 場 サントリーホール・リハーサル室
- ◇主 宰 レオニード・グルチン先生
- ◇参加人数 18名:講師1名、会員10名、一般7名
(クリニック参加者2名、アンサンブル参加者12名、聴講のみ5名)

グルチン先生 感想 竹内 貴博 R-270

チェロサロンへの参加は今回で7回目となりました。クリニックでは、私は、バッハの第三番からプレリュードで受講をさせていただきました。私自身の気づいていない問題点を指摘していただいたり、様々なアイデアやアドバイスをいただけるので、非常に楽しみにしておりますが、人前で演奏するのは、とても緊張します。クリニックでは、音程の問題、フレーズについて、曲の組み立て方等、根気強く丁寧に指導いただきました。特に、フレーズの中の、和音の間にある休符では、音と音とのつながりを意識するように、というご指摘は、とても重要なことと感じました。

さて、次にチェロアンサンブルです。フィツェンハーゲンのアベマリア、アルビノーニのアダージョとも、チェロ4パートの曲で、とても美しい曲です。ゆっくりな曲の美しい響きをつくるために、音程のチェックを交えつつ、2回通しました。チェロアンサンブル特有の豊かな響きを味わうことが出来ました。また、先生の1stチェロのを演奏をお聞きすることができ、豊かな響き、そして幅広い表現等、とても勉強になりました。最後に、質疑応答の時間がありました。そのなかで、ロシア人の演奏、日本人の演奏といった、人種や国に影響を受けるわけではなく、ロシア人の中でも、あるいは、日本人の中でもいろいろな演奏があるように、あくまでも演奏家個人の個性であることや、チェロの演奏は、いまでも進歩しつづけていることなどをお話いただきました。短い時間ではありましたが、最初から最後まで大変充実したチェロサロンでした。このような機会をご用意くださるチェロ協会の方々、また、先生方に感謝いたします。ありがとうございました。



次回“チェロサロン”開催のお知らせ

先日チラシをお送りしましたが、2010年3月27日、日本チェロ協会評議委員の倉田澄子先生を講師にお迎えし、チェロサロンの開催いたします。「チェロサロン」はアマチュアの方を対象としたイベントです。これまでのチェロサロンに参加されている方も初めての方も、この機会にぜひクリニック(アマチュアの方への公開レッスン)とアンサンブルを併せて楽しみませんか。「チェロサロン」といって、少し敷居が高く聞こえてしまうかもしれませんが、とてもアットホームな雰囲気でお楽しみいただける内容となっていますので、どうぞお気軽にお出かけ下さい。詳細・申込み方法については、ホームページおよび先日お送りしたチラシをご覧ください。

皆様のお申し込みを心よりお待ちしております。

- ◇日 時: 2010年3月27日(土) 14:00~16:00予定
- ◇場 所: サントリーホール・リハーサル室
- ◇主 宰: 倉田 澄子先生
- ◇入場料: 会員=無料 非会員=1,000円
(会員以外の方もお問い合わせのうえお越し下さい)

事務局より

○2011年2月イベント開催予告

先日開催された「チェロの日」ですが、2011年にも開催を予定しています。2月11日~13日と、先日のイベントよりも規模を大きくしたものを計画中です。是非みなさま、今からご予約ください。詳細決まりましたら、またご報告致します。

○ホームページ掲載情報募集

チェロ協会のホームページでは、会員の皆様のコンサート開催等のお知らせを掲載しています。ご活用頂きますと幸いです。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

編集後記

第1回「チェロの日」では多くの皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。チェロの音色に包まれた一日で大変幸せな時間を過ごさせていただきました。当日の懇親会では20名以上の方がご入会くださり、新たにチェロ協会の仲間が増え、大変嬉しく思っております。個人的には、懇親会で実際に「チェロ」に触れることができ、ますますチェロへの思いを募らせております。みなさま、今後ともどうぞよろしくお願い致します。(東)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第32号

2010年2月28日発行

発行: 日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内
電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人: 堤 剛

編集: 日本チェロ協会事務局

編集協力: リュウカンパニー